



一般財団法人キヤノン財団 第16期事業報告書

(2023年1月1日から2023年12月31日まで)



キヤノン財団
The Canon Foundation

第16期事業報告書 INDEX

当年概況:年間活動実績	01
当年概況:年間活動実績	02
研究助成事業概要	03
2023年度募集「善き未来をひらく科学技術」プログラム概要	04
2023年度募集「新産業を生む科学技術」プログラム概要	05
研究助成事業概要(2018年度以前募集)	06
研究助成活動	
今年度募集・選考研究助成	07
第15回研究助成募集	08
募集結果	09
選考結果	10
今年度採択研究助成	11
第14回研究助成	12
第14回研究助成金贈呈式	13
今年度終了研究助成	14
助成研究の状況/成果及び報告会の開催(善き未来をひらく科学技術)	15
第11回「善き未来をひらく科学技術」シンポジウム	16
助成研究の状況/成果及び報告会の開催(新産業を生む科学技術)	17
第12回「新産業を生む科学技術」研究成果報告会の開催	18
知的財産講習会・アウトリーチ(外部向け講習会、高校生向け特別セミナー)	19
広報活動	20
リュニオン	21
過去からの研究助成実績	22
第1回(2010年)研究助成先	23
第2回(2011年)研究助成先	24
第3回(2012年)研究助成先	25
第4回(2013年)研究助成先	26
第5回(2014年)研究助成先	27
第6回(2015年)研究助成先	28
第7回(2016年)研究助成先	29
第8回(2017年)研究助成先	30
第9回(2018年)研究助成先	31
第10回(2019年)研究助成先	32
第11回(2020年)研究助成先	33
第12回(2021年)研究助成先	34
第13回(2022年)研究助成先	35
第14回(2023年)研究助成先	36
採択実績推移	37
会計報告	38
正味財産増減計算書	39
貸借対照表	40
キャノン財団 概要	41
設立趣意	42
ビジョン/ミッション	43
財団概要	44
評議員・理事・監事 一覧	45

当年概況：年間活動実績

当年概況:年間活動実績

第16期(2023年)活動経過報告

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
評議員会 ・理事会			▼ 事業報告 第14回研究助成決定 ▼ 選考委員改選								▼ 経過報告 次年度事業計画	
研究助成決定 (第15回募集)			▼ 募集要項公開		← 募集期間 →		← 書面審査 →			▼ 一次選考会	▼ 二次選考会(面接)	▼ 研究助成候補決定
			▼ 大学・研究機関窓口への募集案内 ▼ 学会誌、学会HP等への募集案内		← 公募説明動画配信(オンデマンド) → ▼ 公募説明会《オンライン》							
助成研究実施 (開始～終了)			▼ 第14回贈呈式 ▼ 研究助成金出金		← 研究(終了/経過)報告書 会計報告書提出(第11回～13回) →			▼ 「善き未来をひらく科学技術」 シンポジウム ▼ 「新産業を生む科学技術」 研究成果報告会				
フォローアップ アウトリーチ等		▼ 高校生向けセミナー:第1回				▼ 一般向け講演会:第2回		▼ 知的財産講習会				▼ リユニオン
	← 第12回、第13回 研究助成先訪問 →								← 第14回研究助成先訪問 →			

研究助成事業概要

2023年度募集 「善き未来をひらく科学技術」プログラム概要

「善き未来をひらく科学技術」プログラム概要

善き未来につながる新しい価値の創出に必要な科学知識を獲得する研究、およびその展開を図る基礎技術研究に対して助成を行う。

これまで人類は、直面する社会の様々な課題に対して、新しい技術やアイデアで解決を図ってきた。しかしながら、その解決の先には不都合な課題が生まれていることも否定できない。善き未来社会を実現するためには、過去の延長線上にない、人類にとって本当に幸福な未来（善き未来）の洞察から導き出した未来の価値設計、課題の解決が重要といえる。善き未来は予測するものではなく、構想し、確固たる意志を持って切り拓いていくべきものだと考える。

本プログラムでは、未来社会に予見される新しい課題を発見し解決するような、革新的な知識、知恵、情報、技術などを獲得する科学技術研究を募集する。まだ世の中で注目されていない独創的な視点や特異な発想に基づいた研究を支援する

助成金額：1件あたり申請総額の上限・・・3000万円

採択件数：3件程度

助成期間：原則3年間

助成対象：日本国内の大学、大学院、高等専門学校、公的研究機関等に勤務する研究者

選考方法：キャノン財団選考委員による一次選考（書類選考）および二次選考（面接）

「善き未来をひらく科学技術」選考委員

委員長	大垣 眞一郎	東京大学名誉教授
副委員長	安岡 善文	東京大学名誉教授
	有本 建男	政策研究大学院大学 客員教授、科学技術振興機構 上席フェロー
委員	飯野 正光	東京大学特命教授、ニューロインテリジェンス国際研究機構 機構長特別補佐
	喜連川 優	情報システム研究機構 機構長、東京大学特別教授
	西澤 直子	石川県立大学 学長、東京大学名誉教授

2023年度募集 「新産業を生む科学技術」プログラム概要

「新産業を生む科学技術」プログラム概要

新産業の実現につながる新しい価値の創出をめざし、そのために必要な技術を確認する研究、およびその基礎となる科学技術研究に対して助成を行う。

科学技術には、産業構造を大きく変え、時にこれまで実現不可能と思われた社会の実現を可能にする力がある。今日の人工知能や、IoT、ビッグデータ、等はその一例と言える。将来にわたり日本が強い産業力を持ち続けるためには、そうした産業構造の変革をおこすような新しい科学技術を生み発展させることが必要となる。

本プログラムでは、次の時代をリードする新産業に必要なこれからの社会の豊かさを実現するための要素技術の確立、機構・機序の解明、あるいはシステムを構成させる革新的な科学技術研究を募集する。研究者自身の自由な発想をもとにした独創的な研究、未知の分野や未開発の技術を切り拓く挑戦的な研究を支援する

助成金額：1件あたり申請総額の上限・・・2000万円

採択件数：10件程度

助成期間：原則3年間

助成対象：日本国内の大学、大学院、高等専門学校、公的研究機関等に勤務する研究者

選考方法：キヤノン財団選考委員による一次選考（書類選考）および二次選考（面接）

「新産業を生む科学技術」選考委員

（五十音順）

委員長	長田 義仁	理化学研究所 客員主管研究員、北海道大学名誉教授
副委員長	安藤 功兒	産業技術総合研究所 名誉リサーチャー
	片岡 一則	川崎市産業振興財団 ナノ医療イノベーションセンター センター長、東京大学 特任教授
	荒川 薫	明治大学 総合数理学部長 教授
	大島 まり	東京大学 生産技術研究所 教授
	大竹 尚登	東京工業大学 科学技術創成研究院 研究院長、教授
委員	大津 敦	国立がん研究センター東病院 院長
	大和田野 芳郎	再生可能エネルギー協議会 理事長、福島県ハイテクプラザ 所長
	柏野 牧夫	NTT コミュニケーション科学基礎研究所 柏野多様脳特別研究室 室長、NTT フェロー
	岸田 晶夫	東京医科歯科大学 生体材料工学研究所 教授
	小長井 誠	東京都市大学 総合研究所 特別教授、東京工業大学名誉教授
	中條 善樹	京都大学名誉教授
	深水 昭吉	筑波大学 生存ダイナミクス研究センター センター長
	藤田 静雄	京都大学名誉教授、名古屋大学 未来材料・システム研究所 特任教授

研究助成事業概要(2018年度以前募集)

研究助成プログラム「産業基盤の創生」

日本の強い産業を更に強化する、あるいは新たな産業を興すことによって経済発展を促すような科学技術分野にあって、独創的、先駆的、萌芽的な研究を募集する。このような分野として、ICT・エレクトロニクス・ロボティクス、健康・医療・生命科学、バイオテクノロジー、環境・資源・エネルギー、マテリアル・デバイス・プロセス、サービスサイエンスがあげられる。また、社会的に複雑で難しい課題を解決するために、分野間の知的な触発や融合を図る挑戦的な新興・融合テーマなども対象として含める。日本の経済発展には地域の活性化が不可欠。キヤノン財団は特に地域の活性化に貢献する研究を重点的に支援する。地方に位置する大学等の研究を支援するとともに、中央に位置する大学等の研究であっても地域の活性化を目指す研究について支援する。

経済発展を促すような科学技術分野

ICT・エレクトロニクス・ロボティクス

健康・医療・生命科学

マテリアル・デバイス・プロセス

バイオテクノロジー

環境・資源・エネルギー

サービスサイエンス

研究助成プログラム「理想の追求」

このプログラムでは「Frontier、Welfare、Sustainability」の視点からキヤノン財団が毎年研究課題を提示する。この研究課題にグローバルな視点から挑戦する先駆的で独創性のある研究プロジェクトを募集する。本プログラムでは、次のような課題に向けて取り組む研究プロジェクトを助成の対象とする。

海に関する研究(第1回～第5回)

生命を育む神秘なる海の研究

資源の宝庫である海の研究

環境の変化をもたらす海の研究

その他の海の研究

食に関する研究(第6回～第10回)

飢餓と飽食

食の安全保障

第6次産業化

食の文化と健康、美味しさ

食の安全性と流通

研究助成活動
今年度募集・選考研究助成

第15回研究助成募集

(1) 募集および選考の日程

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
募集			▼ 助成プログラムの公表	▼ 募集要項公開	「善き未来をひらく科学技術」募集期間		「新産業を生む科学技術」募集期間					
案内				▼ 大学・研究機関窓口への案内 ▼ 財団HP、学会誌、学会HP、研究助成サイトへの掲載 ▼ 財団関係者へポスター送付	公募説明会(動画)財団HPで公開							
選考								書面審査		一次選考会	二次選考会(面接)	研究助成候補決定

(2) 助成プログラムの公表

第14回に引き続き、「善き未来をひらく科学技術」「新産業を生む科学技術」の2つのプログラムを実施することを、1月に当財団ホームページ上で公開した。

(3) 募集要項の公開

4月に両プログラムの募集要項を公開した。

(4) 学会、公的研究機関への案内

学会誌・学会ホームページへの募集要項の掲載、学会会員への募集案内メール配信を依頼した。またJSTサイエンスポータル等へ募集案内の掲載を依頼した。依頼した機関数は、65機関であった。

大学及び公的研究機関の助成担当窓口に対しては、当財団より募集案内のメールを配信した。配信先は197機関であった。

(5) 公募説明会の実施

研究助成プログラムへの理解を深めてもらい、新しい価値創出につながる挑戦的な研究提案を増やすことを狙いとして、公募説明を実施した。

① 財団ホームページで公募説明動画配信	公開期間:4/10(月)～6/30(金) 視聴方法:キヤノン財団ホームページに掲載されたオンデマンド動画の視聴 説明内容:キヤノン財団の紹介、研究助成プログラムの紹介、応募の手順、等 視聴者数:225名
② ライブQ&A(オンラインでの質疑応答会)	公開期間:5/18(木) 参加方法:Zoom ウェビナー 参加者数:7名

(6) 研究助成システムの導入

応募、選考、採択後の成果物管理などの研究助成業務に関わる一連の業務のシステム化を実施した。これにより以下の業務の効率化と利用者の利便性の向上が図られている。

- ・応募申請、および応募者からの申請書、申込書の授受
- ・選考委員との選考資料、評価結果の授受
- ・採択後の成果物(研究計画書、成果報告書)や会計報告書などの採択者管理
- ・採択者情報の管理

募集結果

(1) 概要

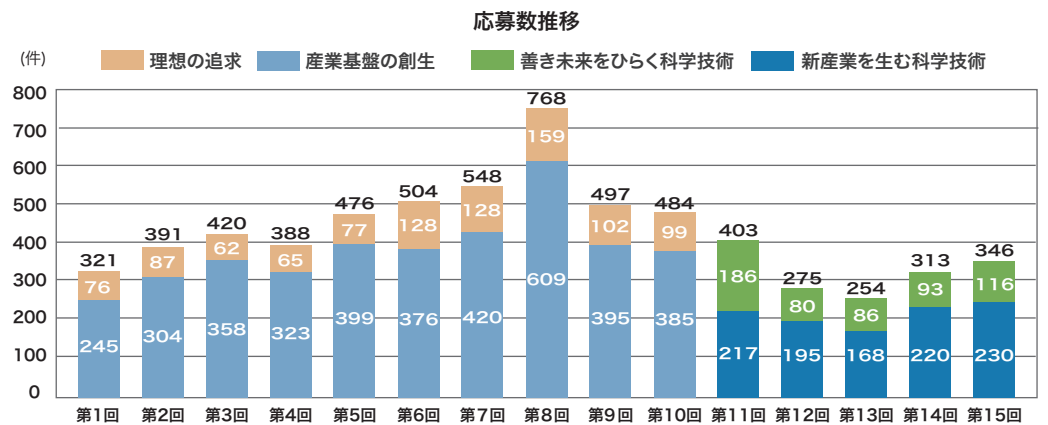
各プログラムの応募結果は以下の通りであった。

- 「善き未来をひらく科学技術」 ・応募数：116件 ・平均年齢：48.9歳
- 「新産業を生む科学技術」 ・応募数：230件 ・平均年齢：46.1歳

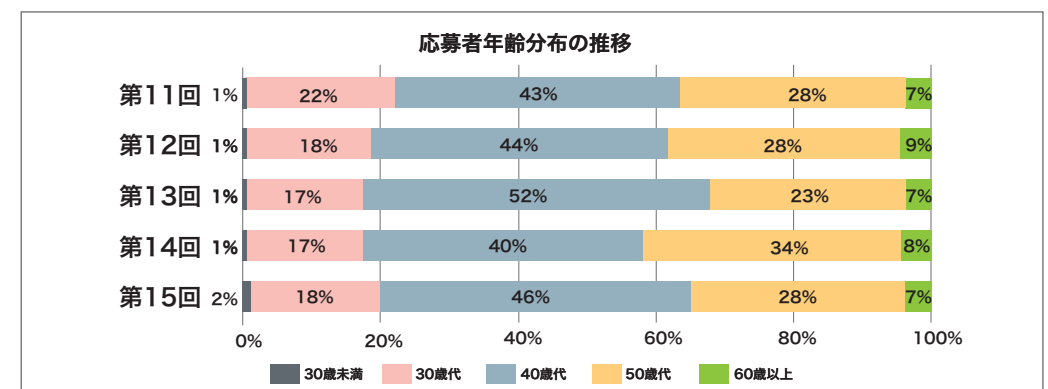
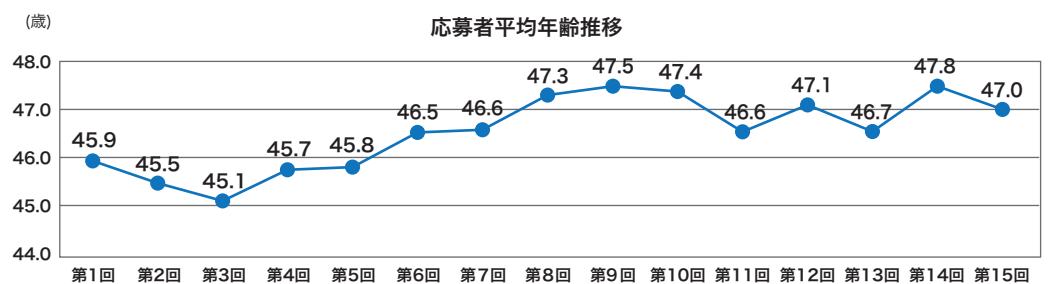
(2) 昨年までとの比較(2プログラム合計)

- 2023年(善き未来をひらく科学技術、新産業を生む科学技術) ・応募数：346件 ・平均年齢：47.0歳
- 2022年(善き未来をひらく科学技術、新産業を生む科学技術) ・応募数：313件 ・平均年齢：47.8歳

応募者数



応募者年齢



選考結果

(1)選考結果

応募締め切り後、書面審査、一次選考会、二次選考会を経て助成候補が決定した。
助成候補については、選考結果報告書を作成し、2023年12月に理事長に提出した。
最終決定は2024年3月の理事会の決議による。

「善き未来をひらく科学技術」

- 助成候補件数：3件(助成総額9,000万円)
- 助成候補者平均年齢：44.0歳

「新産業を生む科学技術」

- 助成候補件数：11件(助成総額2億300万円)
- 助成候補者平均年齢：42.1歳

研究助成活動

今年度採択研究助成

第14回研究助成

第14回研究助成の決定

2023年3月15日の理事会において、選考委員会より提出された第14回研究助成候補が原案通り承認され、研究助成先が決定した。

- 「善き未来をひらく科学技術」研究助成プログラム 3件(総額9,000万円)
- 「新産業を生む科学技術」研究助成プログラム 11件(総額2億円)

「善き未来をひらく科学技術」研究助成プログラム

(所属機関・職位は採択時のもの、五十音順)

氏名	所属機関(申請時)	職位	研究テーマ	助成金(万円)
井上 治久	京都大学	教授	Cross Reality へ生命知能をつなぐメタブレインチップ	3,000
高橋 朋子	埼玉大学	助教	ヒトにおけるRNAによるRNAを標的とした抗ウイルス免疫	3,000
深見 真紀	国立成育医療研究センター	部長	インクルーシブ社会の実現のための「性」の揺らぎの解明	3,000

「新産業を生む科学技術」研究助成プログラム

(所属機関・職位は採択時のもの、五十音順)

氏名	所属機関(申請時)	職位	研究テーマ	助成金(万円)
江藤 浩之	京都大学	教授	サステイナブルな血液供給システムの開発	2,000
岡村 好子	広島大学	教授	バイオインダストリーを加速するオンデマンド核酸合成法の開発	1,600
加藤 英明	東京大学	准教授	脳深部神経細胞の非侵襲活動制御を目指した磁気遺伝学ツール創出	2,000
川那子 高暢	東京工業大学	助教	超低電圧動作2次元半導体CMOS集積回路の研究	2,000
齋尾 智英	徳島大学	教授	神経変性疾患の根治療法開発を目指した相分離破綻メカニズム解明	1,300
柴山 茂久	名古屋大学	助教	偏折と転写によるゲルマニウムナノシート/絶縁膜積層基板の創出	2,000
島田 緑	山口大学	教授	プロリン異性化酵素を標的としたがん創薬のイノベーション	2,000
関口 寛人	豊橋技術科学大学	准教授	脳の広範囲に適用可能な脳神経活動可視化ツールの開発	2,000
富樫 庸介	岡山大学	教授	真のネオ抗原と特異的TCRに基づいたがん治療・診断方法の開発	2,000
山田 鉄兵	東京大学	教授	レドックス集合体の循環による高性能熱化学電池	1,800
若山 裕	物質・材料研究機構	グループリーダー	次世代有機エレクトロニクスを拓く革新的演算機構	1,300

第14回研究助成金贈呈式

第14回研究助成金贈呈式

2023年4月21日に、「第14回研究助成金贈呈式」を行い、今回受領する助成研究者およびその関係者、評議員、理事、監事、選考委員等合わせて39名が参加した。

贈呈式では、はじめに御手洗富士夫評議員会議長のお祝いの挨拶があり、「いずれの採択テーマも独創的で意欲にあふれ、イノベーションが期待できるものばかりです。研究者の皆様には、地球温暖化や資源の枯渇、少子高齢化や格差問題など、地球規模で対処しなければならない様々な課題を解決するために、幅広く叡智を結集して、前例にとらわれず革新的な研究にチャレンジしていただきたいと願っています。」と研究者を激励した。

続いて吉川弘之理事長からは、「今回採択された多くの研究が、複数の共同研究者との俯瞰的研究として計画されています。複数の分野の研究者たちが、大きな目標を掲げ、難しい社会課題に新しい知的好奇心を持って挑戦している事がわかり、非常に心強く感じました。今後も研究に邁進し、社会課題の解決に貢献されることを期待しています。」と期待の言葉を述べられた。(財団職員による代読)

その後、「善き未来をひらく科学技術」選考委員長・大垣眞一郎先生、および「新産業を生む科学技術」選考委員長・長田義仁先生から選考講評と助成研究者への期待の言葉が述べられた。

選考委員長講評後、贈呈証の授与に移り、14名の助成研究者全員に御手洗議長から贈呈証が直接手渡された。続いて助成研究者を代表して埼玉大学 高橋朋子助教と東京工業大学 川那子高暢助教から研究への抱負が述べられた。

贈呈証授与後、第5回助成先である名古屋大学の山内悠輔卓越教授より「第二世代多孔体の開発：物質と空間のテクトニクス」と題した講演が行われた。「第二世代無機多孔体」となる導電性ナノ多孔体を世界に先駆けて独自の合成法で実現した素晴らしい成果や、有機金属構造体や次世代多孔性炭素材料の微小構造と機能に関する設計理論を新たに構築し、燃料電池の触媒のエネルギー貯蔵などへの応用に進展している様子を紹介された。

最後に評議員会議長、選考委員長と今回の助成研究者全員の記念写真撮影をもって閉式した。



研究助成活動

今年度終了研究助成

「理想の追求」「善き未来をひらく科学技術」助成研究の状況

第10回「理想の追求」、第11回「善き未来をひらく科学技術」研究終了について

2023年3月に、「理想の追求」プログラム(研究期間3年)の第10回研究助成4件のうち1件(コロナ禍により1年間期間延長)、および「善き未来をひらく科学技術」第11回研究助成3件中2件が研究を終了した。第11回の3件のうち1件は予定通りに研究を進捗させることが困難となったため、1年間の期間延長を行い、2024年3月に研究を終了する予定である。

終了した3件は成果報告書が提出され、冊子にまとめるとともに、財団ホームページに掲載した。

第11回「善き未来をひらく科学技術」シンポジウム

2023年7月14日(金)、第11回「善き未来をひらく科学技術」シンポジウムを開催した。オンラインと会場の併用開催とし、会場には代表研究者と共同研究者、選考委員等23名が参加し、その他理事長、キヤノン関係者等34名はオンラインにより参加した。

研究が終了した3件の成果報告(第10回助成1件、第11回助成2件)と第13回助成4件の研究経過報告の後、ポスター発表の形式で第11回助成1件(期間延長)、第12回助成4件、第14回助成3件の経過報告を行った。シンポジウム全体を通じて、選考委員から多くの質問がなされ、活発な議論が交わされた。すべての研究報告の後、大垣選考委員長からの全体講評で報告会を締めくくった。

「善き未来をひらく科学技術」研究進捗

第11回研究助成1件(1年期間延長)、および第12回研究助成4件が、2024年3月に終了する予定である。また、第13回の4件は2025年3月、第14回の3件は2026年3月にそれぞれ終了する予定である。

第11回 「善き未来をひらく科学技術」シンポジウム

開催日：7月14日(金)

方 法：会場*とオンラインの併用開催 *会場は丸ビルホール&コンファレンススクエア

報告者：第10回～第14回の研究代表者

参加者：共同研究者、理事長、選考委員、キヤノン関係者、他

会場参加：23名、オンライン参加：34名 合計57名

第I部 研究終了報告

第11回研究助成

- 超原子機能を利用した人工元素の創製 神戸 徹也(東京工業大学)
- 侵害刺激受容体と農薬標的受容体から導く害虫防除の新戦略 曾我部 隆彰(自然科学研究機構生理学研究所)

第10回研究助成

- 地下茎雑草の強みを逆手に取る画期的雑草防除法の開発 経塚 淳子(東北大学)

第II部 研究2年目中間報告

第13回研究助成

- 失われた脳機能を回復するオンデマンドなシナプス可塑性誘導技術 竹本 研(三重大学)
- 光を蓄えて自由に持ち運べる未踏技術“光ストレージ”への挑戦 内藤 俊雄(愛媛大学)
- 実験進化遺伝子マイニングによる作物デザイン情報基盤創出 長谷 純宏(量子科学技術研究開発機構 高崎量子応用研究所)
- 分断を生み出すメカニズム解明と克服のための教育プログラム開発 三輪 和久(名古屋大学)

第III部 ポスター発表(経過報告)研究2年目報告(第12回助成)および研究概要報告(第13回助成)

第11回研究助成

- 非認知能力の育成環境の解明による人の社会的能力の向上 大森 隆司(玉川大学)

第12回研究助成

- 継精子エピゲノム情報の理解と次世代の健康への展開 大隅 典子(東北大学)
- 遺伝子改変鶏を利用した新規ワクチン生産プラットフォーム 西島 謙一(名古屋大学)
- 転写プログラムの理解と応用 宮成 悠介(金沢大学)
- 未来への財産である動物遺伝子資源を永久に保存する技術の開発 若山 照彦(山梨大学)

第14回研究助成

- Cross Realityへ生命知能を繋ぐメタブレインチップ 井上 治久(京都大学)
- ヒトにおけるRNAによるRNAを標的とした抗ウイルス免疫 高橋 朋子(埼玉大学)
- インクルーシブ社会の実現のための「性」の揺らぎの解明 深見 真紀(国立成育医療研究センター)

【選考委員長講評】 大垣 眞一郎 選考委員長



「新産業を生む科学技術」助成研究の状況

第11回助成研究の終了

2023年3月に「新産業を生む科学技術」プログラム(研究期間3年)の第11回助成研究11件のうち9件が研究を終了した。11件のうち2件は1年間の期間延長を行い、2024年3月に研究を終了する予定である。終了した9件は成果報告書が提出され、冊子にまとめるとともに、財団ホームページに掲載した。

第12回「新産業を生む科学技術」研究成果報告会の開催

2023年8月1日(火)に、第12回「新産業を生む科学技術」研究成果報告会を会場とオンラインでの併用形式で開催した。会場には代表研究者と共同研究者、選考委員等37名が参加し、理事長や共同研究者、キヤノン関係者等38名はオンラインにより参加した。

研究が終了した第11回助成9件の研究成果報告と、第13回の研究代表者の11名と第11回助成2件(期間延長)の中間報告(ポスター発表)が行われた。

報告会全体を通して、選考委員からの質問・アドバイスに対し、回答・議論があり、深いレベルの質疑応答がなされ、活発な議論がなされた。

すべての研究報告の後、長田選考委員長からの全体講評で報告会を締めくくった。

「新産業を生む科学技術」研究進捗

第11回研究助成11件のうち2件(期間延長)と、第12回研究助成11件のうち8件が2024年3月に終了する予定である。第12回の11件のうち3件は予定通りに研究を進捗させることが困難となったため、1年間の期間延長を行い、2025年3月に研究を終了する予定である。

また、第13回の11件が2025年3月、第14回の11件が2026年3月にそれぞれ終了する予定である。

第12回 「新産業を生む科学技術」研究成果報告会の開催

開催日：8月1日(火)

方 法：会場*とオンラインの併用開催 *会場は新丸ビルコンファレンススクエア

報告者：第11回・第13回の研究代表者

参加者：共同研究者、理事長、理事、選考委員、キヤノン関係者 合計90名

第I部 研究成果報告

第11回研究助成

- 空中映像産業の基盤技術としての建築調和型空中像光学系の構築 小泉 直也(電気通信大学)
- 半導体発光冷却素子実現に向けたフォトンリサイクル現象の評価 小島 一信(大阪大学)
- ナノ構造・共振器導入による希土類添加半導体の高輝度・多機能化 館林 潤(大阪大学)
- 標的分子を吸着・放出する動的分子認識ゲルの創成 宮田 隆志(関西大学)
- ナノワイヤ蛍光体による偏光白色LEDの開発 石川 史太郎(北海道大学)
- 転写開始点の光操作により実現する革新的タンパク質局在制御技術 松下 智直(京都大学)
- がん組織の神経を操作してがんを抑制するがん神経医療の創出 神谷 厚範((元)岡山大学)

第II部 中間(研究2年目)報告 ポスターセッション

第13回研究助成

- 生体に融和して抑制性免疫を制御する人工膜ミミック型RNA創剤 秋田 英万(東北大学)
- 安全で最適な肺疾患治療を実現する免疫エピゲノム編集技術の開発 遠藤 裕介(かずさDNA研究所)
- がん代謝適応システムを克服するニュートリオミクス技術の開発 大澤 毅(東京大学)
- 核種変換によるダイヤモンドn型半導体の開発 奥野 広樹(理化学研究所)
- 脳内認知領域を標的とする自己投与型核酸デリバリー技術の開発 金沢 貴憲(静岡県立大学)
- 鳥類学と航空工学の協同による飛翔の新たな理解と応用 岸本 直子(関西学院大学)
- 癌特異的T細胞の位置および遺伝子発現を統合解析する基盤の開発 小山 正平(国立がん研究センター)
- 超高速高分解能3D計測・操作を実現する新顕微鏡の開発 杉 沢磨(広島大学)
- 表面改質ダイヤモンドにおける常圧室温超伝導への挑戦 須田 理行(京都大学)
- 実社会応用へ向けた光子技術のパッケージ化 武田 俊太郎(東京大学)
- 微弱な生体信号を高感度に測る無線計測レンズの開発 三宅 丈雄(早稲田大学)

第11回研究助成

- 膜タンパク質合成が拓く創薬新技術「ミラーイメージ創薬」 大高 章(徳島大学)
- 光電場利用社会実現のための光ファンクションジェネレーター開発 吉井 一倫(龍谷大学)

第III部 研究成果報告

第11回研究助成

- 腸内リポ核酸を撲滅して骨折のない世界を実現する 丸山 健太(生理学研究所)
- 大量細胞集団を超網羅的に問診するロボットの実現 太田 禎生(東京大学)

【選考委員長講評】 長田 義仁 選考委員長



知的財産講習会・アウトリーチ(外部向け講演会)

知的財産講習会

2017年度より、研究助成先の研究者に対する知的財産分野での講習を開始し、今回は6回目となる。

実施日：2023年8月30日(水)午後

場 所：新丸ビルコンファレンススクエア

受講者：6名(助成先研究者、共同研究者)

内 容：特許制度概要、発明の認定と特許要件、研究開発における大学・企業の役割アイデアから特許登録までの手続き

アウトリーチ(外部向け講演会)

6月25日(日)に、第2回目のキヤノン財団主催の一般向け講演会を開催した。最新の研究成果を一般の方へ分かりやすく伝え、科学の有用性や社会との関わりを知っていただくことで社会と科学の距離を縮め、科学技術の普及につなげることを趣旨としており、147名が参加した。

講演会では、当財団の研究助成を受けた4名の研究者より、「物質の力で切り開く未来」をテーマに、深海巨大電池、不揮発性メモリ、次世代ナノ物質が創る未来社会、磁気を用いた新熱エネルギー制御技術など物質の持つ様々な新機能によって新しい価値創造へ挑戦する最先端の研究が紹介された。その後、キヤノン財団副選考委員長の安藤功児コーディネーターと講演者によるパネルディスカッションが行われた。

講演会後のアンケートでは中・高校生を含め、幅広い年齢層の視聴者から、「最近の物性物理の一端をのぞかせていただき、驚きと未来の日本への期待を感じた」「大変興味深く、面白く、夢膨らむものであった。若い人と越智の道標になったと思う」などのコメントが寄せられ、多くの視聴者が科学の面白さを感じた様子うかがえ、実りある講演会となった。

■6月25日(日) オンライン開催

タイトル：こんなことができるんだ! 物質の力で切り開く未来

講演者：4名 参加者：147名

中村 龍平

東京工業大学 地球生命研究所 教授

理化学研究所 環境資源化学研究センターチームリーダー

「深海巨大電池 ～太古の地球に学ぶ未来社会～」

西原 禎文

広島大学大学院先進理工系科学研究科 教授

「未来の不揮発性メモリ 記録密度の限界を超えられるのか」

加藤 雄一郎

理化学研究所 開拓研究本部 加藤ナノ量子フォトニクス研究室 主任研究員

「次世代ナノ物質が創る未来社会 原子レベルの精密さの驚異」

内田 健一

物質・材料研究機構 磁性・スピントロニクス材料研究センター

「磁気を用いた新しい熱エネルギー制御技術」

コーディネーター：安藤 功児

産業技術総合研究所 名誉リサーチャー

キヤノン財団研究助成プログラム 副選考委員長



講演会ポスター

高校生向けセミナー

挑戦的な先進研究を分かりやすく若い世代へ伝え、科学の有用性や社会との関わりを知ってもらうことを目的として、初めての高校生向けセミナーを1月20日(金)に岡崎北高校にて開催した。

当財団の助成研究者である生理学研究所の曾我部隆彰准教授より「感覚機能を知る・学ぶ・考える」というテーマで、視覚、臭覚、味覚などの生物の持つ「感覚」についての研究が進んでいる状況が紹介された。生徒たちの興味も高く、多くの質問や議論があり有意義な会となった。

日 時：1月20日(金) 会場は岡崎北高校(愛知県)

タイトル：感覚機能を知る・学ぶ・考える

講演者：曾我部 隆彰 生理学研究所生命創成探求センター 准教授

参加者：岡崎北高校の学生 33名(高校2年生コスモサイエンスクラス)

プログラム

●事前見学会

選抜生徒(4名)による生理学研究所訪問(2022年12月11日)

●当日

①生徒による事前見学会レポート発表(動画)、②人間の持つ感覚機能についての講義、③グループワーク:グループ討議、および発表「失ったら困る感覚機能と、失った場合の補う方法」について、④曾我部准教授の研究の紹介

広報活動

(1) キヤノン財団ホームページ更新

今期、新たに発信した情報は以下の通り。

① キヤノン財団事業報告書

第15期キヤノン財団の事業活動として、研究助成プログラムの概要、選考委員、研究助成活動(募集、応募状況、選考過程等)、贈呈式、「善き未来をひらく科学技術」シンポジウム、「新産業を生む科学技術」研究成果報告会、会計報告等について詳細に報告した。

② 総括報告書

前助成研究プログラム「理想の追求」「産業基盤の創生」は第10回(最終助成回)の成果報告が2022年に行われプログラムが終了となった。これを機に総括として採択結果や採択テーマのその後の発展について調査し、報告書の形にまとめてホームページに掲載した。

③ 助成先だより

助成研究の概要、研究のその後の発展状況、研究者になろうと思ったきっかけ、助成期間を通じた感想、今後の夢などについて、助成先研究者へのインタビューをもとに制作した。2023年は3名へのインタビューを実施し、ホームページに掲載した。これまでに合計19名が掲載されている。

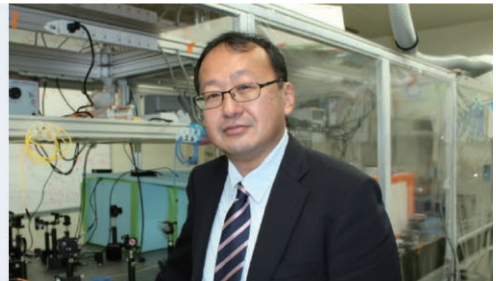
徳島大学 安井 武史 教授 「産業基盤の創成」第5回助成

Theme

光の可能性を求めてものづくりに取り組む

安井 武史

徳島大学
ポストLEDフォトニクス研究所 (pLED)
最高研究責任者 (CRO) /教授



沖縄科学技術大学院大学 御手洗 哲司 准教授 「理想の追求」第2回助成

Theme

沖縄発！ 海洋の”未知”を探求
— 深海に生息する幼生輸送メカニズムの解明 —

御手洗 哲司

沖縄科学技術大学院大学
海洋生態物理学ユニット
准教授/学術博士



関西医科大学 小早川 高 准教授 「理想の追求」第8回助成

Theme

おいが体を制御する
— 忌避剤開発から感覚創薬※の世界へ —

※感覚創薬とは、生物が進化の過程で獲得した潜在的な生命保護作用
を人為的に誘導し治療に応用する新たな技術概念

小早川 高

関西医科大学 附属生命医学研究所神経機能部門
准教授



リュニオン

この活動は、これまで財団で助成してきた研究者、選考委員などの交流を図り、研究そのものの発展に加え、異分野の研究者間での新たな研究活動などが生まれることなどを期待して行っている。

第五回目となる今回は、2023年12月15日(金)に東京・中央区のAP日本橋にて開催した。理事長、選考委員、助成先研究者、キヤノン財団関係者を含め、総勢57名が参加した。

1つ目のプログラムとして、北野宏明氏(沖縄科学技術大学院大学 教授、システム・バイオロジー研究機構 会長、ソニーグループ(株) 執行役員専務CTO、ソニーコンピュータサイエンス研究所 代表取締役社長)より「Nobel Turing Challenge」と題した特別講演を行った。「AIの進化としてチャットGPTの次は、自律的に仮説を立てられるものが登場し、2050年までにはAIがノーベル賞クラスの発見をするようになる」と北野教授ならではの豊富な事例を盛り込みながら、今後の科学技術のイノベーションがどう世の中を変えていくか語られた。

北野教授はキヤノン財団第1回目の採択者でもあり、「キヤノン財団は、国の支援から外れるような研究でも金額の大きな助成金で採択される貴重な財団であり、このコミュニティを広げて成果を出してほしい。」と、参加者への激励メッセージが述べられた。また、リュニオン生みの親である前理事長の生駒俊明様からも、「キヤノン財団は、研究実績がない若手研究者でも、良いアイデアの研究であれば助成するという勇気のあるポリシーで選考を行う。このポリシーを今後もぜひ続けて欲しい」と期待の言葉を述べられた。



続いて2つ目のプログラムとして、異分野の研究交流のきっかけづくりとして、ポスターセッションを実施し、助成終了後および助成中の研究者合わせて21名によるプレゼンテーションが行われ、異分野研究者同士が熱く議論する場面が、会場の至るところで見られた。

過去からの研究助成実績

第1回(2010年)研究助成

研究助成プログラム「産業基盤の創生」

(所属機関・職位は採択時のもの 五十音順)

氏名	所属機関 職位	研究テーマ	助成金(万円)
安坂 幸師	名古屋大学 助教	中空多層フラーレンの光・電子デバイスの開発	1,900
市浦 英明	高知大学 准教授	界面重合反応を活用した新しいナノカプセル・ナノファイバー・ ナノ多孔合成法とその特徴を有するシート状素材の開発	1,000
岡田 健一	東京工業大学 准教授	CMOS技術を用いたミリ波帯超高速スケーラブル無線回路技術の研究	1,200
金子 真	大阪大学 教授	マイクロ液滴によるダイナミックアクティブセンシング	1,500
河野 行雄	理化学研究所 専任研究員	固体ワンチップによる広帯域テラヘルツ分光器の開発	1,700
栗原 正人	山形大学 准教授	100°Cの壁を越える低温焼結性銀超微粒子の高効率・簡便製造と基材適合性	1,200
黒田 俊一	名古屋大学 教授	ナノメディスンの生体内ピンポイント送達を可能にする ヒト由来ウイルス外皮タンパク質コーティング技術の開発	2,000
小池 英樹	電気通信大学 教授	デジタルスポーツ創生のための基礎研究	1,500
佐々木 健夫	東京理科大学 准教授	光誘起電界による分子運動の変調に基づく動的ホログラムの形成	1,000
祖山 均	東北大学 教授	流動キャパシテーションによるラジカルの制御	2,000
中村 龍平	東京大学 助教	自然共生型の高効率光エネルギー変換システムの構築	2,000
松尾 吉晃	兵庫県立大学 准教授	水素貯蔵用シルセスキオキサン架橋型ピラー化炭素の創生	1,000
森田 靖	大阪大学 准教授	有機分子を活物質に用いた革新的高性能二次電池の開発	2,000

研究助成プログラム「理想の追求」

(所属機関・職位は採択時のもの 五十音順)

氏名	所属機関 職位	研究テーマ	助成金(万円)
岩淵 聡文	東京海洋大学 教授	水中文化遺産研究への海洋工学の応用	2,000
北野 宏明	特定非営利活動法人 システム・バイオロジー研究機構 会長	サンゴ-共生藻におけるロバストネス・トレードオフと気候変動	5,000
佐藤 克文	東京大学 准教授	動物目線による海洋環境モニタリング	3,000

第2回(2011年)研究助成

研究助成プログラム「産業基盤の創生」

(所属機関・職位は採択時のもの 五十音順)

氏名	所属機関	職位	研究テーマ	助成金(万円)
安 東 秀	東北大学	助教	走査ナノダイヤモンド磁気検出器プローブによる単スピン検出	1,500
今里 浩子	一般財団法人ファジシステム研究所	主任研究員	誘電泳動現象を用いた白血病細胞の分離・同定	1,700
小椋 俊彦	産業技術総合研究所	主任研究員	高分解能三次元リアルタイム軟X線顕微鏡の開発	1,700
韓 立 彪	産業技術総合研究所	グループ長	革新的有機ヘテロ原子機能材料の創製	1,900
佐治木 弘尚	岐阜薬科大学	教授	機械エネルギーで水から水素を製造する次世代エネルギーシステム	2,000
庄司 暁	大阪大学	助教	2光子加工法を駆使したナノ領域でのポリマーの力学特性の解明	1,100
田邊 孝純	慶應義塾大学	専任講師	微小光共振器による位相制御された光周波数コム光源の開発	1,500
東口 武史	宇都宮大学	准教授	次々世代半導体リソグラフィー用波長6.7nm極端紫外光源の開発	1,900
細谷 浩史	広島大学	教授	ミドリゾウリムシ共生藻が産生する糖類の利用に関する研究	2,000
村越 敬	北海道大学	教授	電子移動機能アトムサイトの室温構造制御	1,500
森川 浩安	大阪市立大学	講師	超音波速度の温度依存性を利用した内臓脂肪診断装置の開発	1,700
吉原 利忠	群馬大学	助教	低酸素病態イメージングのための高機能りん光プローブ分子の開発	1,500

研究助成プログラム「理想の追求」

(所属機関・職位は採択時のもの 五十音順)

氏名	所属機関	職位	研究テーマ	助成金(万円)
桑田 晃	水産総合研究センター	主任研究員	未知の藻類:バラム藻が解き明かす海洋を支える珪藻の進化	2,800
杉松 治美	東京大学	特任研究員	アジア域に棲息する小型歯クジラ類のリアルタイム音響観測ネットワークの構築	2,800
眞部 広紀	佐世保工業高等専門学校	准教授	陸海域カルスト水文系の追跡によるロボット探査とマッピング	600
御手洗 哲司	沖縄科学技術研究基盤整備機構	若手代表研究者	深海底熱水噴出域の幼生輸送と生物群集変動	3,800

第3回(2012年)研究助成

研究助成プログラム「産業基盤の創生」

(所属機関・職位は採択時のもの 五十音順)

氏名	所属機関	職位	研究テーマ	助成金(万円)
浅沼 浩之	名古屋大学	教授	医療応用を目指した人工核酸の創成	2,000
味噌 逸樹	東京医科歯科大学	准教授	ニューラルネットワークモデル検証のための神経細胞三次元培養	1,600
内山 潔	鶴岡工業高等専門学校	教授	プロトン伝導性酸化物薄膜の高性能化とその燃料電池応用	1,100
奥野 貴士	山形大学	准教授	細胞膜タンパク質機能の高感度イメージング解析技術の開発	1,400
尾崎 信彦	和歌山大学	准教授	多色量子ドットによる近赤外広帯域光源開発と医療OCTへの応用	1,200
角田 直人	首都大学東京	准教授	近赤外分光法に基づく顕微領域の温度・水分同時イメージング法の開発	1,500
岸本 昭	岡山大学	教授	高信頼性耐火物への制御した気孔導入が可能な超塑性発泡法の開発	1,600
戸川 望	早稲田大学	教授	グリーンITを実現する超低電力化フラットLSI自動設計技術の創生	1,600
則包 恭央	産業技術総合研究所	主任研究員	光で溶ける有機材料—再生可能な感光性有機材料の基盤技術の創出	2,000
松村 和明	北陸先端科学技術大学院大学	准教授	両性電解質高分子を利用した高次細胞構造体の凍結保存技術の開発	1,300
守友 浩	筑波大学	教授	ネットワークポリマーを用いた『カラー電池』の開発	1,300
山本 希美子	東京大学	講師	先進分子イメージングによる血管の血流感知機構の解明	2,000
渡部 平司	大阪大学	教授	界面制御に基づく超低消費電力半導体ナノエレクトロニクスの創成	1,400

研究助成プログラム「理想の追求」

(所属機関・職位は採択時のもの 五十音順)

氏名	所属機関	職位	研究テーマ	助成金(万円)
落合 芳博	東海大学	教授	深海魚類資源の網羅的開拓	1,000
桑江 朝比呂	港湾空港技術研究所	チームリーダー	都市型ブルーカーボン:新たな沿岸海域炭素循環像の構築	1,000
高井 研	海洋研究開発機構	プログラムディレクター	「沖縄の深海に超巨大海底熱水鉱床を探せ」	5,000
西岡 純	北海道大学	准教授	凍る海の豊かな生態系を生み出す機構の解明	3,000

第4回(2013年)研究助成

研究助成プログラム「産業基盤の創生」

(所属機関・職位は採択時のもの 五十音順)

氏名	所属機関	職位	研究テーマ	助成金(万円)
有澤 光弘	北海道大学	准教授	機能性分子合成用希少元素削減・代替型ナノパーティクル触媒の開発	1,200
伊藤 公平	慶應義塾大学	教授	ダイヤモンドによる単一プロトン核スピン磁気共鳴センシング	1,800
伊藤 嘉浩	理化学研究所	主任研究員	化学拡張進化分子工学による蛍光センサー分子の構築原理の実証	1,500
王 碩玉	高知工科大学	教授	自立高齢者生活支援のためのインテリジェント・ロボットの開発	1,600
大道 英二	神戸大学	准教授	テラヘルツ磁気共鳴力顕微鏡を用いた生体分子の高分解能スペクトロスコピー	1,500
木村 崇	九州大学	教授	スピン吸収効果を用いた極微細スピンクーリングデバイスの開発	1,000
萩原 伸也	名古屋大学	特任准教授	翻訳段階で遺伝情報を変換する新規遺伝子治療法の創生	1,000
林 隆介	産業技術総合研究所	研究員	脳神経情報に基づく視覚体験の可視化技術の開発	1,300
平山 朋子	同志社大学	准教授	超低摩擦摺動メカニズム解明のための新規固液界面分析装置の開発	1,500
福田 弘和	大阪府立大学	准教授	植物工場における超高速環境パラメータ最適化手法の開発	1,700
松田 一成	京都大学	教授	革新的光電変換機能をもつオールナノカーボン太陽電池の開発	1,700
宮元 展義	福岡工業大学	准教授	層状ペロブスカイトに基づく機能性無機ナノシート液晶の開発	1,800
村田 昌之	東京大学	教授	細胞質交換法を用いた「病態モデル細胞」創成と解析技術の開発	1,800

研究助成プログラム「理想の追求」

(所属機関・職位は採択時のもの 五十音順)

氏名	所属機関	職位	研究テーマ	助成金(万円)
井上 麻夕里	東京大学	助教	環境を記録する造礁サンゴの骨格成長メカニズムの解明	4,000
岩崎 渉	東京大学	講師	太古、生命はどんな光を見たか	3,000
田村 岳史	国立極地研究所	助教	気候変動の鍵を握る南極の海	3,000

第5回(2014年)研究助成

研究助成プログラム「産業基盤の創生」

(所属機関・職位は採択時のもの 五十音順)

氏名	所属機関	職位	研究テーマ	助成金(万円)
大森 雅登	豊田工業大学	嘱託研究員	半導体ナノ細線フォトランジスタを用いた単一光子検出器の開発	1,600
加藤 雄一郎	東京大学	准教授	カーボンナノチューブ単一光子源	1,400
式田 光宏	広島市立大学	教授	肺内部でのその場計測を可能にするカテーテルセンサの開発	1,100
白井 裕子	早稲田大学	准教授	林地内走破型伐倒マニピュレータシステムの開発	1,100
竹岡 敬和	名古屋大学	准教授	白い粒子と黒い粒子から得られる様々な色の顔料の調製	1,800
生津 資大	兵庫県立大学	准教授	近未来型低侵襲癌治療のための瞬間発熱ナノ粒子の実現	2,000
新倉 謙一	北海道大学	准教授	高活性ワクセンアジュバントのためのハイブリッドナノ粒子開発	1,810
西村 智	自治医科大学	教授	ゆらぐ生命現象の可視化デバイスの開発	2,000
根岸 雄一	東京理科大学	准教授	低コスト燃料電池を実現する高活性白金触媒の精密合成法の開発	1,400
平川 一彦	東京大学	教授	単一分子をテラヘルツ電磁波で見る技術の開拓	1,700
松浦 和則	鳥取大学	教授	環境応答性人工ウイルスキャプシドの創製	1,700
安井 武史	徳島大学	教授	非線形ギャップレス光コム分光法の開発と呼気診断への応用	1,140
山内 悠輔	物質・材料研究機構	主任研究員	電解析出法による新規ナノポーラス白金電極の開発	1,850

研究助成プログラム「理想の追求」

(所属機関・職位は採択時のもの 五十音順)

氏名	所属機関	職位	研究テーマ	助成金(万円)
荒木 仁志	北海道大学	教授	北の海に未知なる生命と生物多様性を探る	2,000
西田 洋巳	富山県立大学	教授	海洋を漂うプラスミドDNAが生物進化に与える影響	2,000
升本 順夫	東京大学	教授	海洋4次元地図帳:モデリングと可視化のニューフロンティア	3,000
吉田 天士	京都大学	准教授	ウイルスは海洋生物多様性を創生・維持する素粒子か?	3,000

第6回(2015年)研究助成

研究助成プログラム「産業基盤の創生」

(所属機関・職位は採択時のもの 五十音順)

氏名	所属機関	職位	研究テーマ	助成金(万円)
阿部 洋	名古屋大学	教授	蛋白質の高効率生産法の開発	2,000
有田 稔彦	東北大学	助教	汎用樹脂とシリカ微粒子からなる高プロトン伝導セパレータの創製	1,300
飯田 琢也	大阪府立大学	准教授	ナノ/マイクロ構造の超高速光集積・検出システムの開発	1,600
岩倉 いずみ	神奈川大学	准教授	アミノ酸誘導体による希土類錯体の合成:同時多色発光材料の設計	2,000
岩瀬 英治	早稲田大学	准教授	自己修復型伸縮配線を用いたフレキシブルデバイスシート	1,000
上原 宏樹	群馬大学	准教授	延伸技術と燃糸技術の融合による超高強度繊維の創製	1,800
齊藤 博英	京都大学	准教授	RNAナノテクノロジーを活用した細胞運命の人為的制御法の開発	1,000
櫻井 敏彦	鳥取大学	准教授	がん治療を目的としたinchworm型人工核酸の創成と応用	1,600
富永 依里子	広島大学	助教	海洋光合成細菌にIII-V族半導体結晶を成長させる技術の開拓	1,900
松元 亮	東京医科歯科大学	准教授	糖応答性高分子ゲルによるインテリジェント型人工臓腑の開発	2,000
山口 匡	千葉大学	教授	非観血無侵襲の超迅速センチネルリンパ節生検システムの開発	1,900
山本 倫久	東京大学	講師	グラフェンバレートロニクスデバイスの創製	1,900

研究助成プログラム「理想の追求」

(所属機関・職位は採択時のもの 五十音順)

氏名	所属機関	職位	研究テーマ	助成金(万円)
木下 奈都子	筑波大学	助教	揮発性物質による植物間情報伝達と早期病害ストレス検出基盤構築	1,500
辻 典子	産業技術総合研究所	チーム長	伝統発酵食品の腸管免疫制御および腸-脳相関に関する研究	3,000
都築 毅	東北大学	准教授	伝統的日本食を基盤とした健康維持に有効な食事「日本食」の確立	3,000

第7回(2016年)研究助成

研究助成プログラム「産業基盤の創生」

(所属機関・職位は採択時のもの 五十音順)

氏名	所属機関 職位	研究テーマ	助成金(万円)
岩崎 崇	鳥取大学 農学部 助教	ポリヒスチジンを利用した次世代育種基盤技術の創生	1,500
小西 毅	大阪大学 大学院工学研究科 准教授	量子揺らぎ制御に基づく高性能光アナログ-デジタル変換の研究	1,500
佐藤 主税	産業技術総合研究所 バイオメディカル研究部門 研究グループ長	水中のサンプルを多色観察できる走査電子顕微鏡システムの開発	1,100
菅野 公二	神戸大学 大学院工学研究科 准教授	DNAエピゲノム解析に向けた1分子表面増強ラマン分光技術	1,500
西原 禎文	広島大学 大学院理学研究科 准教授	単分子強誘電素子の開発	900
藤田 恭久	島根大学 総合理工学研究科 教授	窒素ドープ酸化亜鉛ナノ粒子塗布型紫外線LEDの高性能化	1,400
松田 修	九州大学 大学院理学研究院 助教	樹木種子の高発芽率化技術に関する研究	1,100
美川 務	理化学研究所 生命システム研究センター 専任研究員	無細胞DNA組換え系を用いた人工蛋白質創製技術の確立	1,500
向井 剛輝	横浜国立大学 大学院工学研究院 教授	メタマテリアルと量子ドットを用いた極小単一光子放出器の創出	1,000
森 初果	東京大学 物性研究所 教授	革新的有機プロト・エレクトロニクス材料およびデバイスの創製	1,400
安田 琢磨	九州大学 稲盛フロンティア研究センター 教授	究極の電荷輸送機能を指向した革新的有機半導体パラダイムの創出	1,400
山本 拓矢	北海道大学 大学院工学研究院 准教授	環状高分子を利用した新奇刺激応答型DDS材料の開発	800
米澤 徹	北海道大学 大学院工学研究院 教授	金属糊を用いた還元ガスを不要とする革新的銅接合材料	1,400

研究助成プログラム「理想の追求」

(所属機関・職位は採択時のもの 五十音順)

氏名	所属機関 職位	研究テーマ	助成金(万円)
芦苜 基行	名古屋大学 生物機能開発利用研究センター 教授	食糧問題軽減を目指したイネの分子育種と特性評価	2,500
栗原 新	石川県立大学 生物資源環境学部 寄附講座 准教授	食品成分の腸内細菌変換による健康増進効果の遺伝学的解析	1,700
後藤 貴文	九州大学 大学院農学研究院 准教授	牛肉生産システムの大構造改革: 科学と国土をフル活用した大革新	2,300
辻 寛之	横浜国立大学 木原生物学研究所 講師	フロリゲンを活用して地球温暖化に強い作物を創るための基礎研究	1,700

第8回(2017年)研究助成

研究助成プログラム「産業基盤の創生」

(所属機関・職位は採択時のもの 五十音順)

氏名	所属機関 職位	研究テーマ	助成金(万円)
鐘巻 将人	国立遺伝学研究所 教授	幹細胞における迅速なタンパク質発現制御技術の開発	1,500
川井 清彦	大阪大学 准教授	RNA1分子検出による癌の遺伝子点突然変異診断	1,100
黒岩 敬太	崇城大学 教授	トマト由来ステロイドアルカロイド配糖体によるブロープ材料開発	1,500
小暮 健太郎	徳島大学 教授	微弱電流薬物送達システムによる体内臓器への核酸医薬新規送達法	1,000
高橋 淳子	産業技術総合研究所 主任研究員	次世代がん治療を実現する「放射線力学療法」の基盤研究	1,500
竹井 敏	富山県立大学 准教授	ガス透過性金型を用いる医薬品材料のナノインプリント加工技術	1,500
秩父 重英	東北大学 教授	ヘリコン波プラズマエピタキシー開発とポラリトンレーザ構造形成	1,500
津田 明彦	神戸大学 准教授	音響配向エレクトロクロミックナノファイバーの創製	1,100
桧垣 匠	東京大学 特任准教授	高CO ₂ 固定植物の作出に向けた気孔エンジニアリング技術の創出	1,300
船津 高志	東京大学 教授	マイクロ液滴を利用した有用な機能性生体分子の探索・創製	1,500
馬渡 和真	東京大学 准教授	単一細胞エピゲノム解析のための基盤技術創成	1,500
湯浅 裕美	九州大学 教授	次世代MRAMへ向けた反平行磁化配列層のスピントルク発振実証	1,000

研究助成プログラム「理想の追求」

(所属機関・職位は採択時のもの 五十音順)

氏名	所属機関 職位	研究テーマ	助成金(万円)
植松 智	千葉大学 教授	日本人と欧米人の腸内細菌叢比較とプロバイオティクス効果の解析	3,000
加藤 清明	帯広畜産大学 教授	食物アレルギーを幅広く軽減するコメの研究	2,000
小早川 高	関西医科大学 学長特命准教授	先天的恐怖活用技術の開発によるげっ歯類からの食害防止	3,000

第9回(2018年)研究助成

研究助成プログラム「産業基盤の創生」

(所属機関・職位は採択時のもの 五十音順)

氏名	所属機関	職位	研究テーマ	助成金(万円)
足立 典隆	横浜市立大学	教授	DNAを切らない安全な高効率ゲノム編集技術の開発	1,800
内田 健一	物質・材料研究機構	グループリーダー	ハイスループット熱画像計測による外場駆動熱制御材料探索の革新	1,100
大場 雄介	北海道大学	教授	高速AFMと蛍光イメージングを用いた細胞膜動態の高分解計測	1,000
大矢 忍	東京大学	准教授	強磁性金属/半導体ハイブリッド量子スピントロニクスデバイス	1,400
角嶋 邦之	東京工業大学	准教授	酸化物・半導体の機能を利用した大容量蓄電デバイスの研究	1,000
片山 佳樹	九州大学	教授	がんコンパニオン診断を可能にする細胞膜抗原超高感度検出法	1,700
北村 朗	北海道大学	助教	光ファイバー型蛍光相関分光システムの研究開発と生物応用	1,000
竹中 充	東京大学	准教授	ゲルマニウム中赤外光集積回路を用いた革新的分子スキャナの開拓	1,200
帯刀 陽子	東京農工大学	講師	分子性電磁ナノコイルからなるメディカルデバイスの創成	1,100
長崎 幸夫	筑波大学	教授	放射線プロテクション機能を有するナノメディシンの開発	1,200
廣瀬 哲也	神戸大学	准教授	シリコン太陽電池による光環境エネルギー利用システム基盤の創生	1,400
松島 敏則	九州大学	准教授	有機無機ペロブスカイトを用いた革新的半導体デバイスの創製	1,800
持田 智行	神戸大学	教授	金属錯体の液化に基づく光機能性液体材料の創成	1,300
柳澤 琢史	大阪大学	教授	Deep learning と脳ビッグデータによる想起画像推定	1,500

研究助成プログラム「理想の追求」

(所属機関・職位は採択時のもの 五十音順)

氏名	所属機関	職位	研究テーマ	助成金(万円)
國澤 純	医薬基盤・健康・栄養研究所	プロジェクトリーダー	食と腸内細菌により形成される腸内環境の理解と健康科学への展開	2,000
西條 雄介	奈良先端科学技術大学院大学	准教授	イネ種子微生物叢を介した種子形質及び微生物共生の制御基盤構築	3,000
妹尾 啓史	東京大学	教授	土を肥やす新たな微生物基盤の解明	1,500
野田口 理孝	名古屋大学	助教	接木技術革新による放棄土壌の再利用プロジェクト	2,500

第10回(2019年)研究助成

研究助成プログラム「産業基盤の創生」

(所属機関・職位は採択時のもの 五十音順)

氏名	所属機関	職位	研究テーマ	助成金(万円)
安藤 和也	慶應義塾大学	准教授	金属酸化物スピン軌道エレクトロニクスの開拓	2,000
和泉 慎太郎	神戸大学	准教授	体温発電を用いるバッテリーレス容量結合型心電図計測システム	1,400
伊藤 英臣	産業技術総合研究所	研究員	腸内細菌をねらった害虫防除技術の基盤創出	1,600
伊庭 靖弘	北海道大学	准教授	あらゆる内部構造をフルカラーで捉える3Dイメージング装置開発	1,500
川上 茂	長崎大学	教授	ネオ・エクソソームの創製	1,400
木寺 正平	電気通信大学	准教授	ドップラ及び多重散乱データの双方向処理による多元的人体検出法	1,400
澤本 和延	名古屋市立大学	教授	脳細胞の移動促進による再生医療技術の創出	2,000
谷本 博一	横浜市立大学	専任講師	時空間分解能を持つ細胞内力学操作技術の開発	1,500
坪井 泰之	大阪市立大学	教授	ナノ構造と量子効果に基づく革新的光マニピュレータの開発	2,000
中川 明	石川県立大学	講師	オピオイド系鎮痛剤の原料テバインの大腸菌を用いた生産系の構築	1,800
長汐 晃輔	東京大学	准教授	2次元層状ヘテロ構造を用いた光機能素子の実証	1,800
山口 明彦	東北大学	助教	視触覚センサFingerVisionに基づくAI物体操作	1,600

研究助成プログラム「理想の追求」

(所属機関・職位は採択時のもの 五十音順)

氏名	所属機関	職位	研究テーマ	助成金(万円)
伊藤 幸博	東北大学	准教授	薬に過度に依存しない畜産物の健全育成システムの開発	2,000
経塚 淳子	東北大学	教授	地下茎雑草の強みを逆手に取る画期的雑草防除法の開発	2,000
清水 達也	東京女子医科大学	教授	藻類動物細胞共生リサイクル培養による革新的食料生産法の確立	3,000
宮下 芳明	明治大学	教授	健康な食事を化学物質なしで満足な美味しさに変える電気味覚技術	2,000

第11回(2020年)研究助成

研究助成プログラム「新産業を生む科学技術」

(所属機関・職位は採択時のもの 五十音順)

氏名	所属機関	職位	研究テーマ	助成金(万円)
石川 史太郎	愛媛大学	准教授	ナノワイヤ蛍光体による偏光白色LEDの開発	2,000
太田 禎生	東京大学	准教授	大量細胞集団を超網羅的に問診するロボットの実現	2,000
大高 章	徳島大学	教授	膜タンパク質合成が拓く創薬新技術「ミラーイメージ創薬」	1,800
神谷 厚範	岡山大学	教授	がん組織の神経を操作してがんを抑制するがん神経医療の創出	2,000
小泉 直也	電気通信大学	助教	空中映像産業の基盤技術としての建築調和型空中像光学系の構築	1,000
小島 一信	東北大学	准教授	半導体発光冷却素子実現に向けたフォトンリサイクル現象の評価	1,700
館林 潤	大阪大学	准教授	ナノ構造・共振器導入による希土類添加半導体の高輝度・多機能化	1,700
松下 智直	京都大学	教授	転写開始点の光操作により実現する革新的タンパク質局在制御技術	2,000
丸山 健太	生理学研究所	特別協力研究員	腸内リボ核酸を撲滅して骨折のない世界を実現する	2,000
宮田 隆志	関西大学	教授	標的分子を吸着・放出する動的分子認識ゲルの創成	1,800
吉井 一倫	徳島大学	特任准教授	光電場利用社会実現のための光ファンクションジェネレーター開発	2,000

研究助成プログラム「善き未来をひらく科学技術」

(所属機関・職位は採択時のもの 五十音順)

氏名	所属機関	職位	研究テーマ	助成金(万円)
大森 隆司	玉川大学	教授	非認知能力の育成環境の解明による人の社会的能力の向上	3,000
神戸 徹也	東京工業大学	助教	超原子機能を利用した人工元素の創製	3,000
曾我部 隆彰	生理学研究所	准教授	侵害刺激受容体と農業標的受容体から導く害虫防除の新戦略	3,000

第12回(2021年)研究助成

研究助成プログラム「新産業を生む科学技術」

(所属機関・職位は採択時のもの 五十音順)

氏名	所属機関	職位	研究テーマ	助成金(万円)
天野 薫	東京大学	教授	スマートデバイスを用いたアルファ波計測技術の開発とその応用	2,000
勝見 英正	京都薬科大学	准教授	セリン修飾を用いた腎臓への新規薬物送達技術に基づく腎疾患治療	2,000
川波 肇	産業技術総合研究所	上級主任研究員	ギ酸からの高圧水素製造技術と二酸化炭素回収と利用技術の開発	1,400
櫻井 武	筑波大学	教授	冬眠様状態を誘導する神経機構の研究と応用への展開	2,000
鈴木 左文	東京工業大学	准教授	テラヘルツレーザーを利用した新たなヒューマンインターフェース	1,400
鷹尾 祥典	横浜国立大学	准教授	宇宙産業革命を担う超小型衛星船団に不可欠なマイクロ推進機	1,400
田中 克典	東京工業大学	教授	乳がん手術を改革する術中迅速Click-To-Sense診断	2,000
中川 誠司	千葉大学	教授	"からだで聞く"超音波を利用したコミュニケーション機器の開発	2,000
野崎 達生	海洋研究開発機構	グループリーダー代理	海底熱水鉱床における金の異常濃集機構の解明と金回収技術の開発	2,000
森 健	九州大学	准教授	抗体医薬の問題を解決し、これを代替する新しい医薬の開発	2,000
森 英毅	長崎医療センター	医師	舌表面画像の深層学習解析による急性虫垂炎の新規診断法の開発	1,960

研究助成プログラム「善き未来をひらく科学技術」

(所属機関・職位は採択時のもの 五十音順)

氏名	所属機関	職位	研究テーマ	助成金(万円)
大隅 典子	東北大学	教授	継精子エピゲノム情報の理解と次世代の健康への展開	2,000
西島 謙一	名古屋大学	教授	遺伝子改変鶏を利用した新規ワクチン生産プラットフォーム	2,500
宮成 悠介	金沢大学	准教授	転写プログラムの理解と応用	2,000
若山 照彦	山梨大学	教授	未来への財産である動物遺伝子資源を永久に保存する技術の開発	3,000

第13回(2022年)研究助成

研究助成プログラム「新産業を生む科学技術」

(所属機関・職位は採択時のもの 五十音順)

氏名	所属機関	職位	研究テーマ	助成金(万円)
秋田 英万	東北大学	教授	生体に融和して抑制性免疫を制御する人工膜ミミック型RNA創剤	1,800
遠藤 裕介	かずさDNA研究所	室長	安全で最適な肺疾患治療を実現する免疫エピゲノム編集技術の開発	1,600
大澤 毅	東京大学	特任准教授	がん代謝適応システムを克服するニュートリオミクス技術の開発	1,900
奥野 広樹	理化学研究所	副部長	核種変換によるダイヤモンドn型半導体の開発	1,800
金沢 貴憲	静岡県立大学	准教授	脳内認知領域を標的とする自己投与型核酸デリバリー技術の開発	1,800
岸本 直子	摂南大学	教授	鳥類学と航空工学の協同による飛翔の新たな理解と応用	1,550
小山 正平	国立がん研究センター	ユニット長	癌特異的T細胞の位置および遺伝子発現を統合解析する基盤の開発	1,950
杉 沢磨	広島大学	准教授	超高速高分解能3D計測・操作を実現する新顕微鏡の開発	2,000
須田 理行	京都大学	准教授	表面改質ダイヤモンドにおける常圧室温超伝導への挑戦	2,000
武田 俊太郎	東京大学	准教授	実社会応用へ向けた光量子技術のパッケージ化	1,800
三宅 丈雄	早稲田大学	教授	微弱な生体信号を高感度に測る無線計測レンズの開発	1,800

研究助成プログラム「善き未来をひらく科学技術」

(所属機関・職位は採択時のもの 五十音順)

氏名	所属機関	職位	研究テーマ	助成金(万円)
竹本 研	三重大学	教授	失われた脳機能を回復するオンデマンドなシナプス可塑性誘導技術	2,400
内藤 俊雄	愛媛大学	教授	光を蓄えて自由に持ち運べる未踏技術「光ストレージ」への挑戦	2,000
長谷 純宏	高崎量子応用研究所	上席研究員	実験進化遺伝子マイニングによる作物デザイン情報基盤創出	3,000
三輪 和久	名古屋大学	教授	分断を生み出すメカニズム解明と克服のための教育プログラム開発	1,600

第14回(2023年)研究助成

研究助成プログラム「善き未来をひらく科学技術」

(所属機関・職位は採択時のもの、五十音順)

氏名	所属機関	職位	研究テーマ	助成金(万円)
井上 治久	京都大学	教授	Cross Reality へ生命知能をつなぐメタブレインチップ	3,000
高橋 朋子	埼玉大学	助教	ヒトにおけるRNAによるRNAを標的とした抗ウイルス免疫	3,000
深見 真紀	国立成育医療研究センター	部長	インクルーシブ社会の実現のための「性」の揺らぎの解明	3,000

研究助成プログラム「新産業を生む科学技術」

(所属機関・職位は採択時のもの、五十音順)

氏名	所属機関	職位	研究テーマ	助成金(万円)
江藤 浩之	京都大学	教授	サステナブルな血液供給システムの開発	2,000
岡村 好子	広島大学	教授	バイオインダストリーを加速するオンデマンド核酸合成法の開発	1,600
加藤 英明	東京大学	准教授	脳深部神経細胞の非侵襲活動制御を目指した磁気遺伝学ツール創出	2,000
川那子 高暢	東京工業大学	助教	超低電圧動作2次元半導体CMOS集積回路の研究	2,000
齋尾 智英	徳島大学	教授	神経変性疾患の根治療法開発を目指した相分離破綻メカニズム解明	1,300
柴山 茂久	名古屋大学	助教	偏析と転写によるゲルマニウムナノシート/絶縁膜積層基板の創出	2,000
島田 緑	山口大学	教授	プロリン異性化酵素を標的としたがん創薬のイノベーション	2,000
関口 寛人	豊橋技術科学大学	准教授	脳の広範囲に適用可能な脳神経活動可視化ツールの開発	2,000
富樫 庸介	岡山大学	教授	真のネオ抗原と特異的TCRに基づいたがん治療・診断方法の開発	2,000
山田 鉄兵	東京大学	教授	レドックス集合体の循環による高性能熱化学電池	1,800
若山 裕	物質・材料研究機構	グループリーダー	次世代有機エレクトロニクスを拓く革新的演算機構	1,300

採択実績推移

採択実績

	「理想の追求」		「産業基盤の創生」	
	応募数	採択数	応募数	採択数
第1回募集	76件	3件	245件	13件
第2回募集	87件	4件	304件	12件
第3回募集	62件	4件	358件	13件
第4回募集	65件	3件	323件	13件
第5回募集	77件	4件	399件	13件
第6回募集	128件	3件	376件	12件
第7回募集	128件	4件	420件	13件
第8回募集	159件	3件	609件	12件
第9回募集	102件	4件	395件	14件
第10回募集	99件	4件	385件	12件
	「善き未来をひらく科学技術」		「新産業を生む科学技術」	
第11回募集	186件	3件	217件	11件
第12回募集	80件	4件	195件	11件
第13回募集	86件	4件	168件	11件
第14回募集	93件	3件	220件	11件
合計	1,428件	50件	4,614件	171件

会計報告

正味財産増減計算書

正味財産増減計算書

(単位:円)

2023年1月1日から2023年12月31日まで

科目	当年度	前年度	増減
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
経常収益計	379,036,298	375,357,464	3,678,834
(2) 経常費用			
① 事業費	313,255,198	312,143,481	1,111,717
② 管理費	90,154,321	87,455,796	2,698,525
経常費用計	403,409,519	399,599,277	3,810,242
当期経常増減額	△ 24,373,221	△ 24,241,813	△ 131,408
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	-	95,236	△ 95,236
(2) 経常外費用			
経常外費用計	-	1	△ 1
当期経常外増減額	-	95,235	△ 95,235
当期一般正味財産増減額	△ 24,373,221	△ 24,146,578	△ 226,643
一般正味財産期首残高	110,603,948	134,750,526	△ 24,146,578
一般正味財産期末残高	86,230,727	110,603,948	△ 24,373,221
II. 指定正味財産増減の部			
① 基本財産運用益	31,224	851,839	△ 820,615
② 一般正味財産への振替額	△ 31,224	△ 851,839	820,615
指定正味財産期首残高	1,000,288,762	1,000,288,762	-
指定正味財産期末残高	1,000,288,762	1,000,288,762	-
III. 正味財産期末残高	1,086,519,489	1,110,892,710	△ 24,373,221

貸借対照表

貸借対照表

(単位:円)

2023年12月31日現在

科目	当年度	前年度	増減
I.資産の部			
1.流動資産			
流動資産合計	340,462,089	365,781,065	△ 25,318,976
2.固定資産			
(1)基本財産			
基本財産合計	1,000,288,762	1,000,288,762	-
(2)その他固定資産			
什器備品	63,513	127,017	△ 63,504
その他固定資産合計	3,152,313	127,017	3,025,296
固定資産合計	1,003,441,075	1,000,415,779	3,025,296
資産合計	1,343,903,164	1,366,196,844	△ 22,293,680
II.負債の部			
1.流動負債			
流動負債合計	257,383,675	255,304,134	2,079,541
負債合計	257,383,675	255,304,134	2,079,541
III.正味財産の部			
1.指定正味財産			
寄付金	1,000,288,762	1,000,288,762	-
指定正味財産合計	1,000,288,762	1,000,288,762	-
(うち基本財産への充当額)	(1,000,288,762)	(1,000,288,762)	-
2.一般正味財産			
一般正味財産	86,230,727	110,603,948	△ 24,373,221
正味財産合計	1,086,519,489	1,110,892,710	△ 24,373,221
負債および正味財産合計	1,343,903,164	1,366,196,844	△ 22,293,680

キヤノン財団 概要

設立趣意

設立趣意

キヤノンは、「国産の高級カメラをつくろう」という大きな志を抱いた若者により1937年に企業としての歩みを始めました。その進取の気性の精神は今日まで受け継がれ、技術で人類の幸福に貢献し続ける企業を目指して発展してまいりました。

キヤノンはこれまでも、人々の生活を豊かにする製品やサービスを提供するとともに、さまざまな分野で社会・文化支援活動を展開してまいりました。この度、これらの活動に加えて、より一層社会に対し恩返しをしたいという強い気持ちから、創業70周年を記念し、キヤノン財団を設立することといたしました。

現在、情報通信を始めとする技術革新により、急速な経済のグローバル化、情報のネットワーク化が実現され、我々の生活はこれまでになく豊かになりました。しかし、その一方で、環境問題、資源問題など、国・地域の境界を越えた人類共通の深刻な課題に直面しています。

これら諸問題の解決には、国家レベルの対応のみならず、人類が幅広く英知を結集し、多面的な取り組みを行い、積極的にその役割を担うことが重要です。とりわけ、科学技術には、人類が直面する諸問題の解決に大きく寄与することが求められています。

キヤノン財団は、時代の要請に従い、科学技術をはじめとするさまざまな学術および文化の研究、事業、教育を行う団体・個人に対し幅広い支援を行い、人類社会の持続的な繁栄と人類の幸福に貢献していきたいと念じております。

2008年12月1日



設立者
キヤノン株式会社 代表取締役会長

御子洗富士夫

ビジョン/ミッション

ビジョン

科学技術の将来と未来社会の洞察をもとにした新たな価値創造への挑戦が尊重される社会を実現することにより、人類の幸福と社会の繁栄に貢献します

ミッション

未来社会のありたい姿を描き、その実現のために今までにない独創的な研究課題に挑戦する科学技術者を支援していきます

概要

名称	一般財団法人キヤノン財団
設立	2008年12月1日
基本財産	10億円
所在地	〒146-8501 東京都大田区下丸子3-30-2
Tel	03-3757-6573
Fax	03-3757-0674
URL	https://jp.foundation.canon

目的

当財団は、科学技術をはじめとする幅広い学術および文化の領域における研究、事業、教育等に対して助成・支援を行うことによって、学術および文化の振興発展を図り、もって広く国民生活の向上と人類社会の繁栄に貢献することを目的とします。

沿革

当財団は、キヤノン株式会社創業70周年を記念して、2008年12月1日に一般財団法人キヤノン財団として同社により設立されました。

2009年5月より2つの研究助成プログラムを設定し、研究助成公募を開始しました。これまでに14回の研究公募を行い、計221件が採択されました。

評議員・理事・監事一覧

評議員

(2024年4月1日現在・50音順)

役職	氏名	現職
評議員会議長	御手洗 富士夫	キヤノン株式会社 代表取締役会長兼社長 CEO
評議員	岩沙 弘道	三井不動産株式会社 相談役
評議員	佐藤 康博	株式会社みずほフィナンシャルグループ 特別顧問
評議員	広瀬 勝貞	公益財団法人 大分県芸術文化スポーツ振興財団 理事長
評議員	渡辺 捷昭	トヨタ自動車株式会社 元代表取締役社長

理事・監事

(2024年4月1日現在・50音順)

役職	氏名	現職
理事長	吉川 弘之	大阪国際工科専門職大学 学長 日本学士院会員 東京大学名誉教授・元総長
理事	安西 祐一郎	公益財団法人東京財団政策研究所 所長 独立行政法人日本学術振興会 顧問 慶應義塾大学名誉教授・元慶應義塾長
理事	伊賀 健一	東京工業大学名誉教授・元学長
理事	垣添 忠生	公益財団法人日本対がん協会 会長 国立がんセンター名誉総長
理事	田中 稔三	キヤノン株式会社代表取締役副社長 CFO
理事	本間 利夫	キヤノン株式会社代表取締役副社長 CTO
監事	内間 裕	弁護士